

CASBEE-京都-建築(新築)2018年版
(仮称)京都市八条市営住宅団地再生事業

■使用評価マニュアル CASBEE-京都-建築(新築)2018年
 ■評価ソフト: CASBEE 京都-新築2018 (v.1.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体				
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し			評価点	重み係数	評価点	重み係数								
Q 建築物の環境品質												3.9				
Q1 室内環境												3.7				
1 音環境												3.1				
1.1 室内騒音レベル												3.0	0.15	3.1	1.00	3.1
1.2 遮音												3.0	0.50	3.0	0.50	
1 開口部遮音性能												3.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能												3.0	-	4.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)												3.0	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)												3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音												3.0	-	3.0	-	
2 温熱環境												2.0	0.35	4.0	1.00	3.7
2.1 室温制御												3.0	0.50	4.0	1.00	
1 室温												3.0	0.63	-	-	
2 外皮性能												3.0	0.38	4.0	1.00	
3 ソーン別制御性												3.0	-	-	-	
2.2 湿度制御												1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式												1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境												3.0	0.25	3.8	1.00	3.7
3.1 屋光利用												4.2	0.30	4.0	0.40	
1 屋光率												5.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口												-	-	3.0	0.30	
3 屋光利用設備												3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策												2.0	0.30	4.0	0.40	
1 屋光制御												2.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度												3.0	0.15	3.0	0.20	
3.4 照明制御												3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境												3.0	0.25	4.2	1.00	4.1
4.1 発生源対策												3.0	0.60	5.0	0.63	
1 化学汚染物質												3.0	1.00	5.0	1.00	
4.2 換気												3.0	0.40	3.0	0.38	
1 換気量												3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能												3.0	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮												3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理												-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視												3.0	-	-	-	
2 喫煙の制御												3.0	-	-	-	
Q2 サービス性能												-	0.30	-	-	3.4
1 機能性												3.4	0.40	4.4	1.00	4.2
1.1 機能性・使いやすさ												3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性												3.0	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応												3.0	-	5.0	1.00	
3 バリアフリー計画												3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性												3.0	0.30	3.5	0.40	
1 広さ感・景観 (天井高)												3.0	-	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース												3.0	-	-	-	
3 内装計画												3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理												4.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計												5.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保												4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性												3.1	0.30	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振												3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)												3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能												3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数												3.6	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数												5.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔												3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔												3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔												3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔												5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔												2.0	0.20	-	-	

2.4 信頼性					2.8	0.20			
1	空調・換気設備				3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備				2.0	0.20			
3	電気設備				3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5	通信・情報設備				3.0	0.20			
3 対応性・更新性					2.8	0.30	2.8	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり							2.6	0.50	
1	階高のゆとり				3.0		3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)		3.0		2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					3.0		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性					2.8	1.00			
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20			
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		2.0	0.20			
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10			
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10			
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20			
Q3 室外環境(敷地内)						0.30			4.7
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)	外構緑化指数20%以上50%未満	5.0	0.30			5.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)	景観の届出の認可を受けている。	5.0	0.40			5.0
3 地域性・アメニティへの配慮					4.0	0.30			4.0
3.1	地域性への配慮, 快適性の向上	●とも, 自然	A'(全国版準用)	敷地の中央に広場をつくるなどの、敷地内に風を導く配慮を	5.0	0.50			
3.2	敷地内温熱環境の向上	●とも	A(全国版準用)	敷地の中央に広場をつくるなどの、敷地内に風を導く配	3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性									4.0
LR1 エネルギー						0.40			4.5
1 建物外皮の熱負荷抑制				断熱等級4を取得予定	5.0	0.20			5.0
2 自然エネルギー利用		●自然	A(全国版準用)		3.0	0.10			3.0
3 設備システムの高効率化		●自然	C(独自加点)	[BEI][BEIm] = 0.78	5.0	0.50			5.0
4 効率的運用					3.5	0.20			3.5
集合住宅以外の評価									
4.1	モニタリング				3.0				
4.2	運用管理体制				3.0				
集合住宅の評価					3.5	1.00			
4.1	モニタリング				3.0	0.50			
4.2	運用管理体制			住まい方説明会にて、説明を実施する。	4.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル						0.30			3.8
1 水資源保護					2.2	0.20			2.2
1.1 節水					1.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.70			
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30			
2 非再生性資源の使用量削減					4.2	0.60			4.2
2.1	材料使用量の削減	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10			
2.2	既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20			
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)	高炉セメントを杭に使用可	5.0	0.20			
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)	グリーン購入法におけるパーティクルボード、NSシート、オールドブリックを使用。	5.0	0.20			
2.5	持続可能な森林から産出された木材	●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10			
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	●大切	A(全国版準用)	戸境壁は、躯体+LVL+仕上げ材により、容易に分解できる	5.0	0.20			
3 汚染物質含有材料の使用回避					4.3	0.20			4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				接着剤、タイル用シーリングには有害物質を含まない材料を使用している	5.0	0.30			
3.2 フロン・ハロンの回避					4.0	0.70			
1	消火剤				-	-			
2	発泡剤(断熱材等)			断熱材としてHF0を使用	5.0	0.50			
3	冷媒				3.0	0.50			
LR3 敷地外環境						0.30			3.7
1 地球温暖化への配慮				評価対象のCO2排出率が62%	4.6	0.33			4.6
2 地域環境への配慮					3.6	0.33			3.6
2.1	大気汚染防止				3.0	0.25			
2.2	温熱環境悪化の改善	●とも	A(全国版準用)	風下地域への風の通り道を遮らない等の計画上の配慮を行っている。	4.0	0.50			
2.3	地域インフラへの負荷抑制				3.5	0.25			
1	雨水排水負荷低減				3.0	0.25			
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			
3	交通負荷抑制			管理用の適切な駐車スペースを確保する等の配慮を行っている。	5.0	0.25			
4	廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25			
3 周辺環境への配慮					3.0	0.33			3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40			
1	騒音				3.0	1.00			
2	振動				-	-			
3	悪臭				-	-			
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制					3.0	0.40			
1	風害の抑制				3.0	0.70			
2	砂塵の抑制				-	-			
3	日照阻害の抑制				3.0	0.30			
3.3 光害の抑制					3.0	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70			
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●とも	B(推奨内容)		3.0	0.30			

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目 重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる